

●3月16日（木）

◀本日のプログラム▶

- ・ Koch Institute For Integrative Cancer Research 訪問
- ・ MIT 訪問（学生、研究者らによるキャンパス内ガイドツアー）
- ・ Cambridge Innovation Center 訪問

\*\*\*\*\*

朝9時過ぎ、2日前の悪天候（暴風雪）の名残を一切感じさせない快晴のなか、ホームステイ初日を終えた生徒たちは、集合場所である「Kendall 駅」で皆元気な表情を見せてくれました。プログラム開始時間に遅れての到着は1組のみ、それでも若干の遅れでしたので、各滞在先にてファミリーや留学生たちとしっかりと経路を確認、かつ初日ゆえ早めの行動でほぼ全員が時間通りに集合できたことは何よりでした。

早速に最初の訪問施設である「Koch Institute For Integrative Cancer Research at MIT」へ移動。Koch Institute は、マサチューセッツ工科大学内に所在する、がん撲滅のための基礎研究を行う目的で設置された研究施設です。最先端の当施設では世界各国からの優秀な生物学者、科学者だけでなく、MIT の強みを生かし工学者（コンピューター工学他）、さらに臨床医およびその他有識者が結集し、がん撲滅に向けまさに多分野にまたがる研究と積極的な情報発信を行っています。

同施設の果たす役割に加えて、癌発生と進行のメカニズムについて、そして同施設の研究ハイライト（特にナノテクノロジーによる薬物輸送システム、新しい細胞免疫反応の分析手法の開発）について、専任のエducator による高校生向けの講演とワークショップを実施いただきました。高校生向けとはいえ、終始英語で行われた講演内容の理解は当然容易ではないですが、続けて行われたワークショップでは、サンプル（模擬薬品）を用い、かつ昨日参加してくれた大学生リーダーのサポートのもとで体験的（視覚および嗅覚）に研究の一端にふれることができ、文理または個々の関心度合によらず楽しみながら知見と関心を広げる機会になったものと思います。

昼食後は、MIT メインキャンパス内のガイドツアーを実施しました。MIT の現役学生（学部、大学院）および研究者、助教ら計6名（=6グループ）に参加いただき、チャールズ川を南に臨む美しく広大なキャンパス内を巡りました。キャンパス周辺に立ち並ぶ関連（提携）研究施設、関連団体や企業を含めるとその規模の大きさは驚くほどですが、歴史を感じる重厚な建物の数々、一方でガラス越しに惜しげもなく開放している研究室、実際に行っている授業やミーティング風景など、言うまでもなく常に世界トップランクの大学ながら、オープンな雰囲気とその懐の深さ、広さのようなものを十分に味わうことができたのではないのでしょうか。今回、ガイドいただいた方々4名は日本人（または日本語可能者）でもありましたので、彼らの専門や経験についてじっくりと話を伺う、あるいは懇談の機会が設定できれば・・・とも思いましたが、散策中には生徒個々の質問に対してのアドバイスや提言もいただき、写真におさめたもの以外の学びや影響があったことと思います。

本日最後は、「CIC : Cambridge Innovation Center」を訪問しました。同施設は、スタートアップ企業（または個人）等にオフィス空間や管理サービスを提供する起業支援組織。スタートアップだけでなく、ベンチャーキャピタル、大企業、起業家、コンサルタント、政府関係者等も集まり、イノベーションや新規ビジネス創出のためのコミュニティー作り、環境を提供しています。本施設内に入居する企業から2名のゲストとCIC 運営スタッフ（日本人）にお越しいただき、施設内のツアー含め、彼らにとってのCIC の意義（成果）、そして日本人スタッフからは同組織の役割について説明をいただきました。“テクノロジーとイノベーションはこれからの将来に不可欠”という考えのもと、あえてMIT のあるケンブリッジ

エリア（建物はMIT隣接）に居を構えたのは、「知識、技術はあるが、世に出なければ意味がない。つまり、大学（学者、研究者）のリソースと世界（社会）を“つなぐ”役割、そして小さな個のアイデアから大きな価値、可能性を生み出す役割を担う」ため、とのメッセージは強く印象に残りました。

実質、現地プログラム初日となる本日は時間、内容ともに密度濃いものとなりました。MIT、CIC訪問にて得られた知識や情報はもちろんですが、それ以上に会ったひとたちから受けた影響はより大きいものであったと強く感じます。

以上、現地2日目の報告とさせていただきます。

\*\*\*\*\*





